

市政モニターに関すること 広報室広聴課 担当:中野、相良 TEL:582-2527	アンケート内容に関すること 子ども家庭局子育て支援課 担当:崎山・上島 TEL:582-2473
--	---

令和5年10月31日

令和5年度 第4回市政モニターアンケート
 「子ども食堂等の認知度調査」
 結果概要

本市では、平成28年度からモデル事業として子ども食堂を実施し、平成30年度に民間に移行してからも、伴走型の支援を行っています。令和元年度と令和2年度には「北九州市における子ども食堂の支援に向けた取組に関する連携協定」を市内の企業と締結し、オール北九州としてのサポート体制を構築しました。

令和5年度も、子ども食堂を多世代交流の場として位置づけ、取組を進めていますが、より地域のニーズに合わせた支援に繋げていくため、アンケート調査を行いましたので、下記の通り結果をお知らせいたします。

子ども食堂及フードパントリーについて、市民の高い認知度や関心度を確認することができました。この結果を参考にし、今後の取組を進めてまいります。

記

1 調査概要

調査対象者 市政モニター150人(うち、回答者143人 回収率96.0%)
 調査実施日 令和5年7月28日～令和5年8月11日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査

2 調査結果概要

子ども食堂を知っていると回答した人は87%におよび、高い認知度があると分かりました。また、「子ども食堂に行ってみたい」との回答は、子育て世帯で 51.1%、子どもがいない世帯でも 41.7%にのぼり、子ども食堂が「子どもだけの居場所では無く、多世代交流の居場所」として認識されつつあることが伺えます。

子ども食堂の役割については、「子どもの食育の場」が 28.4%、「地域交流の場(多世代交流の場)」が14.4%、「子どもの遊び場」が8.2%、「保護者の憩いの場」が5.5%、「貧困対策」が34.2%となっていました。

依然として「貧困対策」という認識が根強いものの、「貧困対策」と答えた人が前年度比-6%となっており、多様な役割を持つ活動であるという認識が広がりつつあることが分かりました。

フードパントリーについては「知らない」と回答した人が前年度比-5%となっていました。コロナ禍で活動が出来ていなかった子ども食堂が徐々に再開できるようになり、フードパントリーの実施は減少しているものの、コロナ禍以降現在においても継続して実施している団体が複数あることから、フードパントリーの認知度そのものが徐々に高まっていることが伺えます。

令和5年度
第4回市政モニターアンケート

「子ども食堂等の認知度調査」

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 子ども食堂について	2
(2) フードパントリーについて	7
IV 全体考察	8

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター150人
 回答者数 143人(回収率96.0%)
 調査実施日 令和5年7月28日～令和5年8月11日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 広報室広聴課 TEL582-2527
 調査依頼課 子ども家庭局子育て支援課 TEL582-2473

II 市政モニターの構成

R5.7.28

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	68 (45.3%)	82 (54.7%)	区別			
10歳代	2 (1.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	門司区	16 (10.7%)	8 (5.3%)	8 (5.3%)
20歳代	18 (12.0%)	7 (4.7%)	11 (7.3%)	小倉北区	35 (23.3%)	15 (10.0%)	20 (13.3%)
30歳代	20 (13.3%)	10 (6.7%)	10 (6.7%)	小倉南区	26 (17.3%)	10 (6.7%)	16 (10.7%)
40歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	若松区	8 (5.3%)	1 (0.7%)	7 (4.7%)
50歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	八幡東区	11 (7.3%)	6 (4.0%)	5 (3.3%)
60歳代	22 (14.7%)	11 (7.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	44 (29.3%)	23 (15.3%)	21 (14.0%)
70歳以上	40 (26.7%)	17 (11.3%)	23 (15.3%)	戸畑区	10 (6.7%)	5 (3.3%)	5 (3.3%)

※モニター総数150名のうち郵送モニター25名、ネットモニター125名

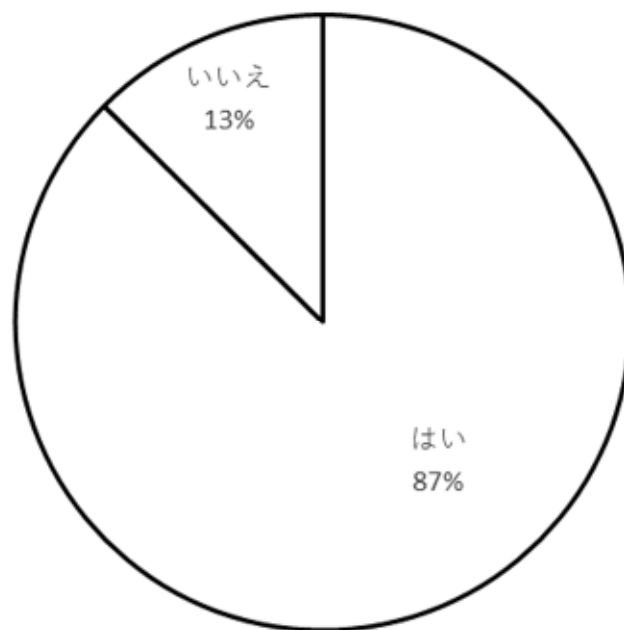
※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

【子ども食堂について】

(1)子ども食堂の認知度

子ども食堂について知っていますか？



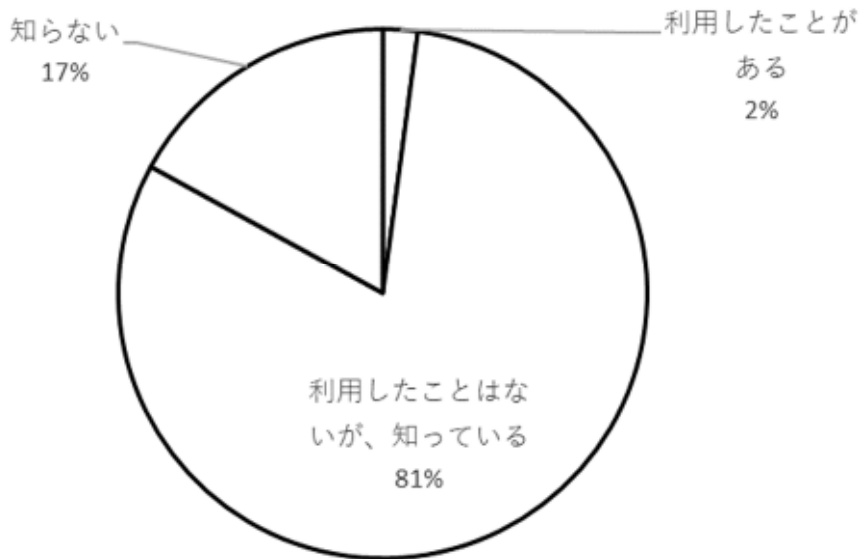
①年代別

年齢(代)	回答者数 (人)	割合 (%)			
		はい	いいえ	はい	いいえ
全体	143	125	18	87.4	12.6
10代	2	2	0	100.0	0.0
20代	14	12	2	85.7	14.3
30代	23	16	7	69.6	30.4
40代	21	19	2	90.5	9.5
50代	24	20	4	83.3	16.7
60代	21	20	1	95.2	4.8
70代	35	33	2	94.3	5.7
80代以上	3	3	0	100.0	0.0

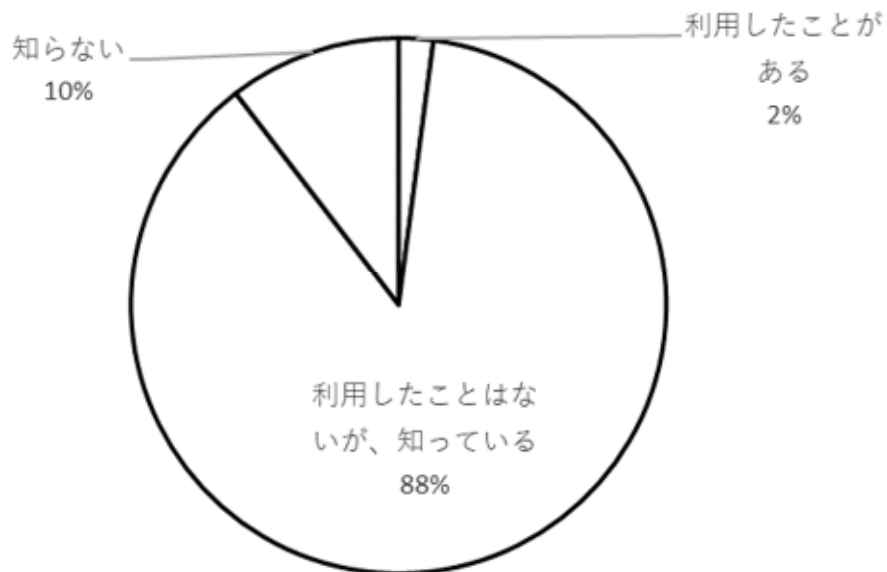
※子ども食堂を「利用している」、「利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」と回答した人は「はい」と数え、「知らない」と回答した人を「いいえ」と数えたもの。

②子どもの有無別

◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人の場合



◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人の場合



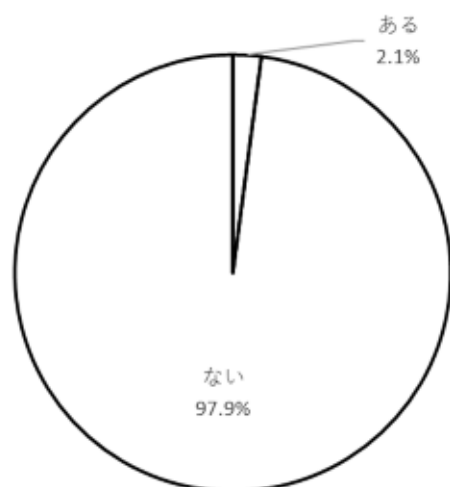
子どもがいる人※ ₁ (回答数47人)				子どもがいない人※ ₂ (回答数96人)			
利用している	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	利用している	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない
0	1	38	8	0	2	84	10

※₁同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人

※₂同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

(2)子ども食堂への参加について

子ども食堂に行ったことはありますか？

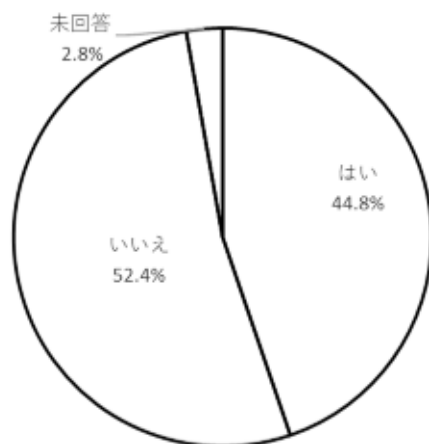


全体	ある	ない
143	3	140

(3)子ども食堂に行ってみたいと思いますか？

①年齢別

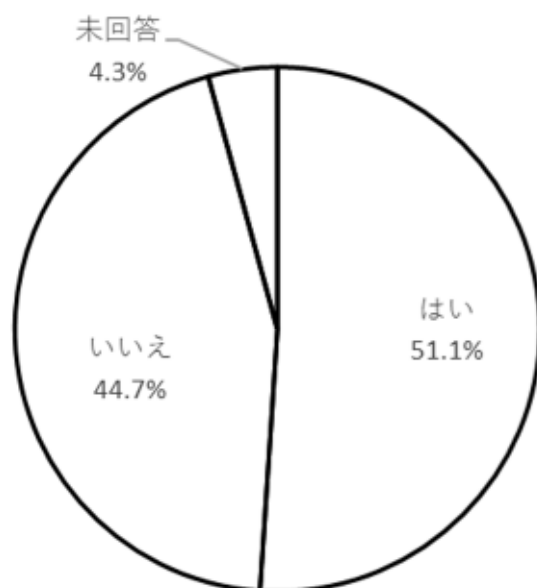
※子ども食堂に行ったことがない人を対象に質問



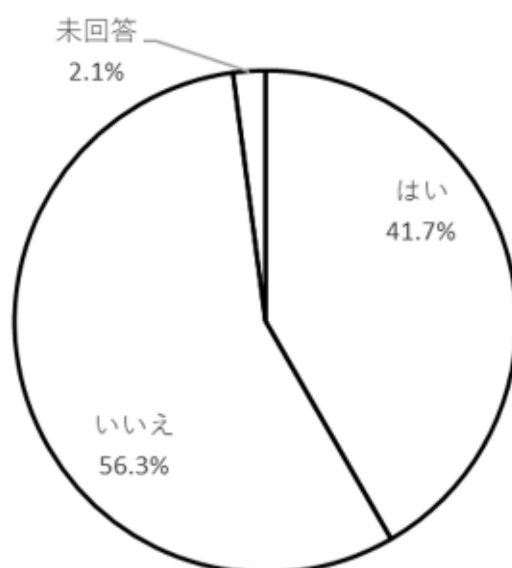
年齢(代)	回答者数 (人)	割合 (%)			割合 (%)		
		はい	いいえ	未回答	はい	いいえ	未回答
全体	143	64	75	4	44.8	52.4	2.8
10代	2	2	0	0	100.0	0.0	0.0
20代	14	4	8	2	28.6	57.1	14.3
30代	23	9	14	0	39.1	60.9	0.0
40代	21	14	7	0	66.7	33.3	0.0
50代	24	10	14	0	41.7	58.3	0.0
60代	21	5	16	0	23.8	76.2	0.0
70代	35	18	15	2	51.4	42.9	5.7
80代以上	3	2	1	0	66.7	33.3	0.0

②子どもの有無別

◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人の場合



◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人の場合

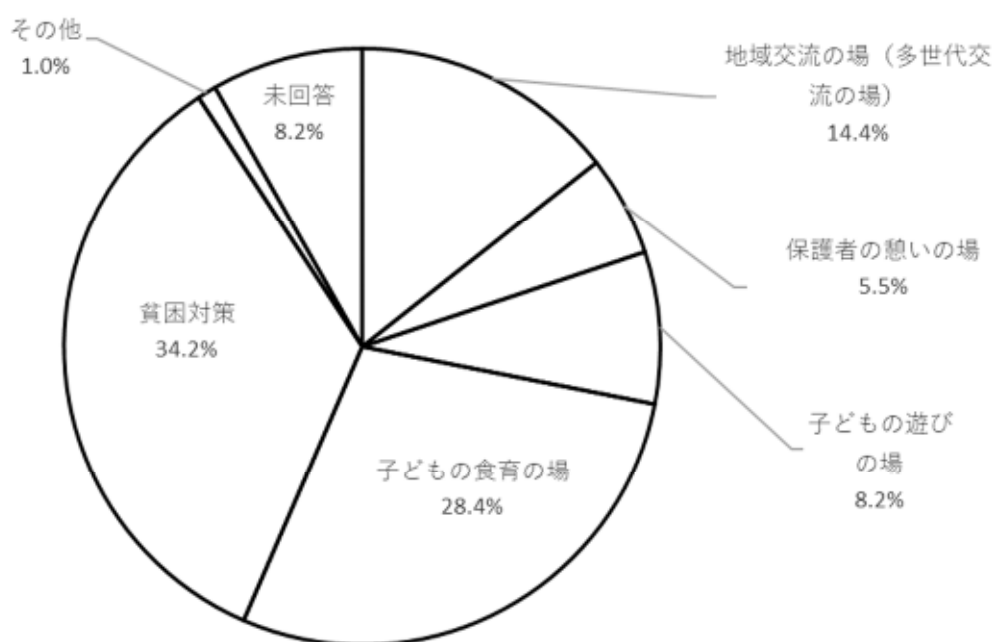


子どもがいる人※ ₁ (回答数44人)			子どもがいない人※ ₂ (回答数95人)		
はい	いいえ	未回答	はい	いいえ	未回答
24	21	2	40	54	2

※₁同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人

※₂同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

(4)子ども食堂はどのようなところだと思いますか(複数回答可能)



回答者数139人 (内回答数232件)

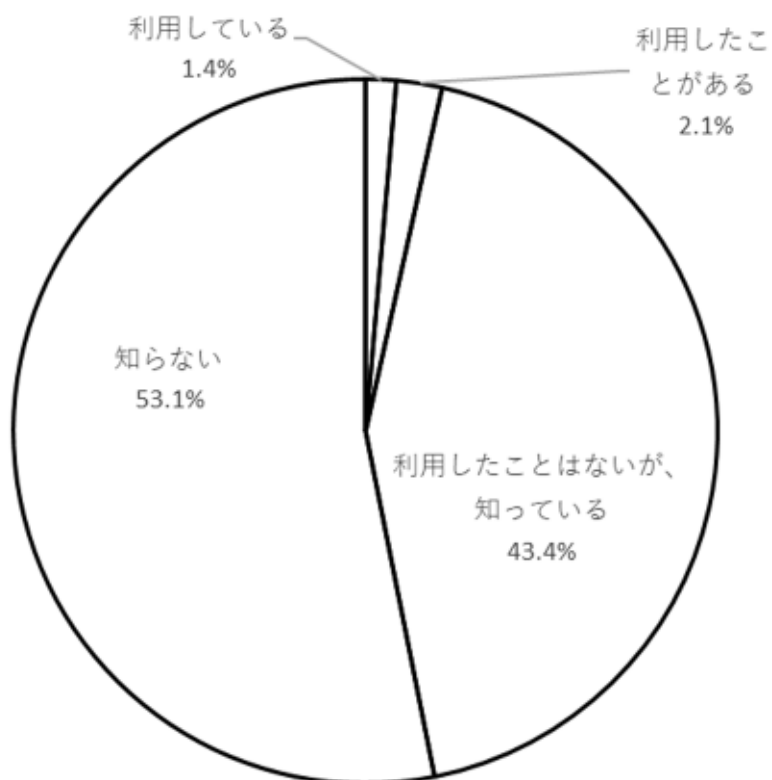
項目	回答数	割合 (%)
地域交流の場 (多世代交流の場)	42	14.4
保護者の憩いの場	16	5.5
子どもの遊びの場	24	8.2
子どもの食育の場	83	28.4
貧困対策	100	34.2
その他	3	1.0
未回答	24	8.2

◆その他の内容・意見等(抜粋)

- ・行政などの施策の周知・展開を行う場
- ・同じ環境の人たちが集うことで、孤独ではないとの認識が出来る場
- ・栄養を考えた食事を学ぶ場
- ・子ども達の孤食の防止やそこに来る子ども達と大人がコミュニケーションを図ることにより、子ども達が安心して過ごせる場所

【フードパントリーについて】

フードパントリーについて、知っていますか？



項目	回答者数	割合 (%)
利用している	2	1.4%
利用したことがある	3	2.1%
利用したことはないが、知っている	62	43.4%
知らない	76	53.1%
計	143	100.0%

IV 全体考察

【子ども食堂について】

(1)子ども食堂の認知度

子ども食堂を知っていると回答した人は、全体の87%で、前年度調査での93.5%から6.5%低下したが、依然として高い認知度であることが分かった。

また、同居または市内に20歳未満の子どもがいる人と、そうでない人の認知度の比較を行った。子どもがいる人で「利用している」、「利用したことがある」、利用したことはないが、知っている」と答えた人は全体の83%、子どもがいない人のその割合は90%といずれも高く、子どもの有無に関わらず、子ども食堂の認知度が高いことが分かった。

(2)子ども食堂への興味・関心

子ども食堂に行ったことがない人の中で、子ども食堂に行ってみたいと答えた人は全体の44.8%であり、「いいえ」と答えた人の割合は、全体の52.4%だった。

また、子ども食堂に行ってみたいとの回答は子育て世帯で51.1%、子どもがいない世帯でも41.7%となり、子ども食堂が「子どもの居場所ではなく、多世代交流の居場所」として認識されていることが伺える。

(3)子ども食堂の役割

本市では、子ども食堂を地域の多世代交流の場と位置付け、取組みを進めているところである。子ども食堂の役割について質問したところ(複数回答方式)、「子どもの食育の場」が28.4%、「地域交流の場(多世代交流の場)」が14.4%、「子どもの遊び場」が8.2%、「保護者の憩いの場」が5.5%、「貧困対策」が34.2%となり、依然として「貧困対策」という認識が強いものの、それを上回る割合で異なる役割の認識がもたれており、多様な役割を持つ活動であると認識されていることが分かった。

【フードパントリーについて】

フードパントリーについて、「利用している」が1.4%、「利用したことがある」が2.1%、「利用したことはないが、知っている」が43.4%であり、「知らない」と回答した人は53.1%だった。令和4年度の調査では「知らない」が57.6%だった。

今回の認知度の上昇は、コロナ禍で活動ができなかった子ども食堂が徐々に再開できるようになり、フードパントリーの活動自体は減少しているものの、コロナ禍以降、現在においても継続して実施している団体が複数あることから、フードパントリーの認知度そのものが徐々に高まっていることが伺える。

今回の調査結果を参考に、本市における子ども食堂やフードパントリーの支援のあり方について検討していきたい。

【市政モニターに関すること】

広報室広聴課(Tel:582-2527)

【アンケートに関すること】

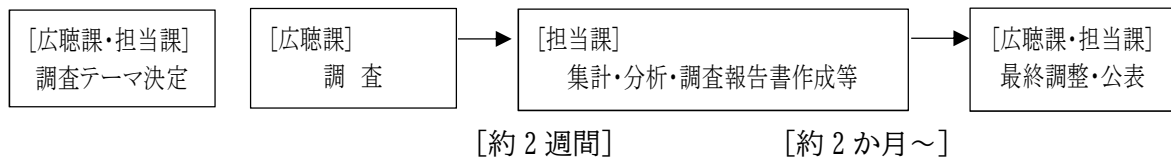
子ども家庭局子育て支援課(Tel:582-2473)

市政モニター制度について

1. 市政モニター制度の概要

市の様々な施策を進めるうえで、満足度や実感などの市民の生の声を参考とするため、毎年、公募による18歳以上の市民150人に、市政モニターとして様々な分野のアンケートに協力していただいています（依頼期間 令和5年5月から令和6年3月）。

2. 市政モニター調査の作業工程について



[約2週間]

3. 令和5年度 市政モニターアンケート調査 実施予定及び公表予定

回	実施時期	件名	担当課	回収率	公表予定
1	5月12日～5月26日	認知症支援・介護予防に関する意識調査	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	95.3%	8月
2	6月2日～6月16日	北九州市の観光振興について	産業経済局 観光課	92.7%	9月
3	6月30日～7月14日	生涯学習に関する意識調査	市民文化スポーツ局 生涯学習課	93.3%	10月
4	7月28日～8月11日	子ども食堂等の認知度調査	子ども家庭局 子育て支援課	96.0%	10月
5	8月18日～9月1日	モラル・マナーアップについて	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	—	11月
6	9月15日～9月29日	暴力追放運動について	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	—	12月
7	11月8日～11月22日	北九州市の生物多様性について	環境局 環境監視課	—	2月
8	12月6日～12月20日	消防団について	消防局 消防団課	—	3月